



たけびしスタジアム京都 START



→ たけびしスタジアム京都 FINISH

2024.12.22 sun

男子第75回全国高等学校 駅伝競走大会報告

令和7年2月

秋田県立金足農業高等学校
第75回全国高等学校駅伝競走大会出場支援協議会



男子 42.195km 7 区間

| 五 条 通 | 西 大 路 通 | 北大路通 | 堀 川 通 | 紫 明 通 |



ごあいさつ

秋田県立金足農業高等学校

第75回全国高等学校駅伝競走大会出場支援協議会

会 長	同窓会会長	高 橋 浩 人
副会長	P T A会長	佐 藤 豪
副会長	陸上競技部OB会会長	笹 渕 兼 一
副会長	陸上競技部OB会副会長	佐々木 克 広
副会長	校 長	工 藤 雅 文

余寒厳しき折、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、本校陸上競技部は56年振り13回目の全国大会出場の切符を手にし、昨年12月22日に京都市において開催されました、男子第75回全国高等学校駅伝競走大会に出場いたしました。出場に際しまして、県民をはじめ、数多くの皆様から、多大なるご芳志やご声援を賜りましたことに、本校同窓会、P T A、本校陸上競技部OB会、陸上競技部保護者、学校及び関係者一同、心より厚くお礼申し上げます。

さて、今大会は第19回大会でマークした本校のベスト記録（2時間14分）の更新を狙って臨みましたが、残念ながら記録の更新には至らず、2時間20分18秒という結果に終わりました。しかし、選手全員がこれまで支えてくれた方々への気持ちを一本の櫂に込め、持てる力を十分に発揮し、都大路を金足農業高校らしく粘り強く走ってくれました。この貴重な経験をもとにさらなる飛躍を目指し、精進を重ねてまいります。

募金をお寄せくださいました収支につきましては、本紙記載のとおりでありますので、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

なお、御芳名簿と金額につきましては、個人情報保護のため掲載しないことをご了承ください。

結びに、金足農業高等学校及び本校陸上競技部に対し、今後とも変わらぬご支援やご声援を賜りますようお願い申し上げ、あいさつといたします。

男子第75回全国高等学校駅伝競走大会出場経費決算書

収 入 総 額	8,943,804円
支 出 総 額	6,859,653円
差 引 残 額	2,084,151円

収入の部

(単位円)

	予 算	決 算	比較増減	摘 要
賛 助 金	10,000,000	8,894,324	△ 1,105,676	2,751件
雑 収 入	50	49,480	49,430	高体連全国大会サポート事業
合 計	10,000,050	8,943,804	△ 1,056,246	

支出の部

(単位円)

	予 算	決 算	比較増減	摘 要
用 具 費	2,000,000	1,590,200	△ 409,800	シューズ・ユニフォーム等
大 会 費	4,084,600	3,237,233	△ 847,367	選手・監督旅費等
応 援 費	1,000,000	1,226,201	226,201	応援者旅費
事 務 費	1,200,000	806,019	△ 393,981	芳名簿・看板印刷等
予 備 費	1,715,450	0	△ 1,715,450	
合 計	10,000,050	6,859,653	△ 3,140,397	

男子第75回全国高等学校駅伝競走大会報告

期 日 2024年12月22日(日)

コース たけびしスタジアム京都をスタート、フィニッシュとする
たけびしスタジアム京都付設駅伝コース(男子全国高校駅伝コース)

男 子 42.195km 7区間

- 第1区 10km(たけびしスタジアム京都～烏丸鞍馬口)
- 第2区 3km(烏丸鞍馬口～丸太町河原町)
- 第3区 8.1075km(丸太町河原町～国際会館前)
- 第4区 8.0875km(国際会館前～丸太町寺町)
- 第5区 3km(丸太町寺町～烏丸紫明)
- 第6区 5km(烏丸紫明～西大路下立売)
- 第7区 5km(西大路下立売～たけびしスタジアム京都)

全国高校駅伝競走大会に出場して

金足農業高校陸上競技部駅伝チーム 監督 小 野 総 志

昭和43年、第19回大会以来、56年振り13回目、第75回全国高等学校駅伝競走大会に出場を果たしました。本校駅伝チームは昭和25年第1回大会で第2位、その後の大会でも第8位に入賞を2回するなどの実績を誇ります。

この度、全国高等学校駅伝競走大会の出場にあたり、たくさんの方々からのご支援、温かい声援を賜り心から感謝申し上げます。また、日頃から本校陸上競技部に、ご理解とご協力をいただいております関係の皆様にも厚く感謝申し上げます。

さて、去る10月18日、12時30分にスタートをした全国高校駅伝秋田県予選会では、気温上昇による予期せぬ波乱のレース展開の中、本校長距離部員が粘り強く襷を繋ぎ、全国駅伝の出場権を獲得しました。

そして、12月22日の本大会は、2時間20分18秒、58位という結果で終わりました。全国の強豪チームの高速化は凄まじく、思い描いた駅伝をさせてもらえませんでした。それでも選手たちは、これまでのトレーニングで積み重ねた体力と精神力のもと、経験したことのない重圧の中ではありましたが、必死にゴールまで襷を繋いだ姿には、とても感動を覚えました。

結びになりますが、県民や地域の皆さん、そして学校関係者の方々はじめ多くの方々に支えられ、高校生ランナー憧れの地、「都大路」を金足農業高校駅伝チームが走る姿をお披露目できたことに心から感謝申し上げます。これからも本校駅伝チームは後輩に襷を繋ぎ続け、更なる飛躍を目指します。今後とも、ご支援くださいますようお願いいたします。

全国高校駅伝競走大会に出場して

金足農業高校陸上競技部 顧問 田 口 健 一

本校男子駅伝部は、第75回全国高等学校駅伝競走大会に、昭和43年の第19回大会以来、実に56年振り13回目の出場を果たしました。

日頃より本校陸上競技部の活動にご理解いただきありがとうございます。また、今回の全国高校駅伝出場に際しまして、多大なご支援・ご協力をいただき本当にありがとうございました。関係各所に厚く御礼申し上げます。

10月18日の秋田県予選では、誰もが予期せぬレース展開となりましたが、本校選手は一人一人が最後まで自分の走りをし、見事1位でゴールを駆け抜け、全国駅伝への切符を手に入れました。

私は、監督が練習に集中できるよう、そして選手が無事にスタートし無事にゴールできるよう、全国駅伝終了まで、陸上競技部顧問としてできることをすべてやろうという思いで臨みました。滋賀県の事前合宿から9泊10日という長丁場でしたが、故障者や体調不良者が一人も出なかったことが何よりでした。

大会当日は1区から苦戦を強いられましたが、選手全員が諦めない走りを見せ、無事ゴールまで襷を繋ぐことができました。その中で、本校の7区の選手がスタジアムに姿を見せてからフィニッシュまでの間、割れんばかりの拍手が続いたことに本当に感動しました。フィニッシュラインを無事越えたときには、体の力が抜け、自然と涙が流れてきました。選手と同じように、私もやり切ったという気持ちになりました。

最後に、多くの方々の応援・支援のおかげで「都大路」を駆け抜けることができたことに、心から感謝申し上げます。4年後100周年を迎える本校が、さらなる躍進を遂げるよう邁進してまいります。今度とも、よろしくお願いいたします。



競技を振り返って

1区

荻原 太陽 (主将)

私たちが全国高等学校駅伝競走大会に出場するにあたり、たくさんのご支援、ご声援をいただきました。本当に、ありがとうございました。

56年振りに出場を決めることができ、目標であった舞台に立つことができました。今でも、頑張ってきた仲間と全国高校駅伝秋田県予選を一位でゴールした瞬間は忘れることのできない喜びとして脳裏に残っています。しかし、誰一人として経験したことのない舞台、不安な気持ちもありました。「自分たちにできることは何か」、「やらなければいけないことは何か」を話し合い、実行しました。チームとしての目標タイムは2時間14分、金足農業の歴代最高記録を更新することと、これまで支えてくださった方々へ走りて恩返しをしたい、また、地域の方々に勇気付ける走りをしたいという思いで全国駅伝競走大会に向かいました。

初めての都大路は厳しいものでした。私自身、思うように力を出せないまま、襷をつなげてしまいました。ほろ苦い大会となってしまいましたが、都大路での経験を今後の陸上生活に活かしていければと思います。最後に、これまで楽しく走り切れたのは、皆様のご声援やサポートがあったからだと思います。本当にありがとうございました。今後も、ご支援くださるようお願いいたします。



1区紹介

2区

中山 遥斗

この度は、全国駅伝出場に際し、たくさんの応援やご支援をいただきありがとうございました。

今回初めて全国大会に出場し、改めて全国の強さを実感することができました。私は2区を走りました。これまでの練習の成果を出すことや、一緒にたくさん時間を過ごした仲間のためと思い、諦めずに走りました。結果は自己ベストを出すことができず、悔しかったのですが、チームの目標である襷を繋ぎきることができたので良かったと思います。また、チームメイト全員で目指していた全国に出場できて、とても嬉しく楽しかったという思いが強く、また、この経験は、たくさん学ぶことがあり、役に立つことばかりで、チームメイト一人一人の今後の生活に活かされると思います。

最後に、日頃から応援してくださる方々や地域の方々に、本当にありがとうございました。今後もご支援くださいますようお願いいたします。



2区紹介



大会当日_会場と虹

3区

小川 結人

はじめに、たくさんの方々からの応援やご支援をいただき、本当にありがとうございました。

自分たちは、10月に行われた秋田県高校駅伝で優勝し、都大路への出場権を獲得してから、家族、友人や先生方からたくさんの応援や激励をいただき、とても心の支えになりました。東北駅伝が終わってからの約1ヶ月間は、強度の高い練習でも諦めずに、自分が都大路を走っていることを想像して練習に取り組みました。大会当日は、沿道からたくさんの人のあたたかい声援をいただき、大勢の方々に応援される喜びを感じることができました。結果は、個人としてもチームとしても悔しいものとなりましたが、都大路を走ったことは、今後の人生において、必ず生きてくると思います。

自分は、家族をはじめとして、友人や先生方等の支えがなければ、全国大会まで出場できていなかったと思います。こういった方々への感謝の気持ちを忘れずに大学進学後も陸上競技に励みたいと思っています。



3区紹介

4区

二田 悠

私は、全国高等学校駅伝競走大会（都大路）の4区を走るといって、貴重な経験をすることができました。とても、感慨深い気持ちでいっぱいです。

この区間は下りでスピードが出しやすい特徴があり、序盤はリズム良く走ることができましたが、後半でペースを維持することが難しくなりました。途中で体が重く感じ、ペースが落ちてきてしまいましたが、沿道から聞こえてきた声援が力強い支えとなり、最後まで集中して走ることができました。長い距離を一人で走るとはとても厳しいと感じてしまいましたが、チーム全体で走り抜く駅伝では、チームメイトとのつながりを強く実感することができ、実力以上の力を発揮できたと思います。

全体の結果としては満足のできるタイムではありませんでしたが、この経験を次に活かしていきたいと思っています。



4区ラン

5区

薄田 璃羽

都大路の5区を走らせていただきましたが、襷をもらう前から、緊張感やプレッシャーに押しつぶされそうになっていました。沿道からの応援の声や仲間のために走りたいという気持ちで襷を受け取りました。走り始めると、上りの厳しい区間で、苦しい場面もありましたが、沿道の応援やチームメイトの声援に励まされ、なんとかペースを維持し、走りきることができました。走り終わった後は、疲れがどっときましたが、それ以上に、最後まで襷を繋ぐことができたという達成感とチーム一丸となって戦ったということに誇りを感じました。

5区を任せられ、自分なりに成長を実感できています。この貴重な経験は、これまでの陸上人生の中で最も幸せな時間となりました。最高の景色を見させていただき本当にありがとうございました。



5区紹介

6区

佐藤 令空

全国駅伝競走大会ではじめて都大路を走りましたが、多くの応援の声と独特の緊張感に圧倒されましたが、沿道から響く声援に勇気づけられ、走りきることができました。成績は区間順位58人中56位と自己ベストを更新できず悔しい結果となってしまいましたが、私たちの目標であった「最後まで襷を繋ぐこと」を達成できたのは、何よりも喜びです。

この経験や悔しさ胸に、さらなる体力やスピードアップ、腕の振りや足の回転など全体的にフォームを改善し、個人としてもチームとして

もレベルアップを目指します。

そして、チームをまとめ上げ、ライバル校に勝てるだけの実力をつけたいと思いますので、応援よろしくお願いします。



6区紹介

7区

中山 翔太

私たちが全国駅伝競走大会に出場するにあたり、たくさんの応援をありがとうございました。振り返ってみると、とても貴重な経験をしたなと思いました。今でも、中継所のスタートラインに立った瞬間の緊張感を忘れられません。周囲の選手達と対等に同じ舞台に立てることに感謝しつつ、自分の役割を果たそうという気持ちになりました。

レース本番は、今までやってきたことを全て出すことができたと思います。途中で、辛いときもありましたが、沿道の応援や仲間の声が背中を押してくれました。特に、最後の競技場での声援は、疲れが吹き飛ぶほどの大きな力を与えてくれました。そしてゴールした瞬間は今まで経験したことのない達成感で胸がいっぱいになりました。

この大会を通じて、58位という結果でしたが順位よりも大切なことを学ぶことができました。これからも日々の練習を頑張り、さらに成長していきたいです。



7区紹介

田口 一秀

私は全国高等学校駅伝競走大会に補欠として参加し、選手のサポートを行いました。

この経験を通じて、裏方としての責任の重さと、チームの一員としての役割を学びました。選手達が最高の状態で走ることができるよう、練習中のタイム計測や準備の手伝い、当日の応援など、自分のできることに精一杯取り組みました。

走ることができない悔しさを感じる場面もありましたが、その分、チームの勝利を影で支える重要性を強く実感しました。また、選手達の全力で走る姿を見て、目標に向かって努力を続けることの素晴らしさを改めて感じました。

この大会を通じて、表舞台に立つ選手だけではなく、裏方で選手を支える人々全員の力があって初めて成果を得られるということを学びました。今後は、自分も走者としてチームに貢献できるよう、さらに努力を重ねていきたいと思っています。



佐藤 以琉

都大路の全国高等学校駅伝競走大会で走者のサポートをし、一年生として多くのことを学びました。初めての経験で緊張しましたが、先輩方のアドバイスを受けながら、自分の役割を果たすことができ、とても達成感を感じています。特に、双子の兄が6区を走る姿を間近でサポートできたことは自分にとって特別な思い出になりました。スタート前の兄の集中した表情や、全力で襷を渡す姿に、家族としてもチームメイトとしても深く感動しました。サポート役として、走者が安心して走る環境を整えることの大切さを実感しました。裏方の仕事は地味かもしれませんが、選手達が全力を尽くすことができるのは、チーム全体の支えがあったからこそだと強く感じました。

この経験から、走者を支える難しさとやりがい学ぶと同時に、来年、再来年、走者として都大路の舞台に立てるよう、自分自身ももっと努力しようと決意することができました。

高田 恵人

私は、全国高等学校駅伝競走大会に出場しました。控え選手として、選手が万全の態勢で走ることができるよう、サポートをしてきました。

全国大会本番に向けて、チーム全体がそれぞれの目標を胸に日々の練習に取り組みました。私もチーム全体のモチベーションが上がるよう、金足農業高校陸上競技部としてのプライドを胸に、日々の生活はもちろん、練習においても意識して取り組んできました。選手をサポートする立場であったことから、先輩やチームメイトからのアドバイスをもとにサポートできたと思います。

今回の全国高校駅伝競走大会では、様々なことを学ぶことができました。これもチームの力、そして支えてくださった保護者、OB会をはじめとした多くの方々の応援があったからだと思っています。本当にありがとうございました。

駅伝競技大会の記録～新聞記事より～

秋田魁新聞 提供

56年振りの大きなチャンスゲット！

〈令和6年10月19日(土)〉

全国高校駅伝県予選

男子、栗田選手が優勝。秋田県予選が行われ、男子(栗田選手・10人)は優勝。2時間20分3秒で56年ぶり最速、女子(栗田選手・9人)は秋田県予選1時間15分3秒で4年ぶりの優勝。

金足農 56年ぶり頂点

【左】優勝を喜び、ゴールを駆け抜けた栗田選手

栗田選手は、栗田選手が優勝。秋田県予選が行われ、男子(栗田選手・10人)は優勝。2時間20分3秒で56年ぶり最速、女子(栗田選手・9人)は秋田県予選1時間15分3秒で4年ぶりの優勝。

栄光

男子
金足農

栗田選手は、栗田選手が優勝。秋田県予選が行われ、男子(栗田選手・10人)は優勝。2時間20分3秒で56年ぶり最速、女子(栗田選手・9人)は秋田県予選1時間15分3秒で4年ぶりの優勝。

悪条件でも冷静さ保つ

栗田選手は、栗田選手が優勝。秋田県予選が行われ、男子(栗田選手・10人)は優勝。2時間20分3秒で56年ぶり最速、女子(栗田選手・9人)は秋田県予選1時間15分3秒で4年ぶりの優勝。

栗田選手は、栗田選手が優勝。秋田県予選が行われ、男子(栗田選手・10人)は優勝。2時間20分3秒で56年ぶり最速、女子(栗田選手・9人)は秋田県予選1時間15分3秒で4年ぶりの優勝。

駅伝競技大会の記録～新聞記事より～

秋田魁新聞 提供

56年ぶり！ 12度目の出場への意気込み 〈令和6年12月14日(土)〉

駅伝男子 **金足農** 56年ぶり 12度目

22日・京都

チャレンジ冬

【11】

食らい付き、粘り強く



駅伝競走大会に出場する金足農の選手たち。大会では、食らい付き、粘り強く走り抜けた。

区	区長	区長名	出走中	選手記録
1	◎佐藤	太田②	田中	32分21秒 (1区)
2	佐藤	中田①	外田川	9分38秒 (2区)
3	小川	城人②	西田	36分49秒 (3区)
4	二村	城人②	城人	28分7秒 (4区)
5	佐藤	以地①	外田川	10分20秒 (5区)
6	中山	隆太①	土 橋	10分40秒 (6区)
7	中山	悠斗②	土 橋	16分59秒 (7区)
補欠	山口	一希②	城人	
補欠	澤田	瑞穂①	天 王	
補欠	高田	恵人①	秋田北	

(オーガニゼーション、大会事務局、◎は主将)



13 2024年(令和6年)12月21日(土) 毎 日 新 聞

男子注目校選手

駆ける都 旋風期待

全国高校駅伝

金足農 56年ぶり 古豪復活へ



駅伝競走大会に出場する金足農の選手たち。大会では、食らい付き、粘り強く走り抜けた。

男子注目校選手として、金足農の選手たちが注目を集めている。彼らは、56年ぶりに全国高校駅伝に出場し、古豪復活への意気込みを込めて走り抜けた。

金足農の選手たちは、大会では、食らい付き、粘り強く走り抜けた。彼らの走りには、多くの観客が感動を覚えた。

金足農の選手たちは、大会では、食らい付き、粘り強く走り抜けた。彼らの走りには、多くの観客が感動を覚えた。

毎日新聞 提供

金農古豪復活へ期待 〈令和6年12月21日(土)〉

駅伝競技大会の記録～新聞記事より～

秋田魁新聞 提供

大先輩も期待！56年越の夢をつかめ

〈令和6年12月22日 日〉



金足農OBで、56年前に全国高校駅伝に出場した近野さん

全国高校駅伝
きょう22日の男子第15回全国高校駅伝競走大会（京都市）に金足農高等学校が56年ぶりに出場する。元男鹿市陸上競技協会長の近野清作さん（74）＝同市脇本脇本＝は、56年前の第19回大会（1968年）で都大路を走った1人だ。半世紀を超えて大舞台に挑む後輩たちに「記録も大事だが、自分たちの力を出し切って完走してほしい」とエールを送る。

56年前出場 近野さん（男鹿）

五城目町出身の近野さんは、旧杉沢中を卒業後、第1回大会（50年）で全国2位に入るなど実力校だった金足農高に進学した。当時は陸上競技部の専用練習場がなく、学校近くの砂利道では毎日20分走り込み、めきめきと力を付けた。第17回大会（66年）は1年生ながら補欠登録、3年生だった第19回大会は6区を任された。5区のランナーから6位でたすきを渡されると5キロのコースを疾走。16分20秒で6位をキープしランカーへつないだ。チームは8位入賞だったものの、個人の結果には物足りなさを残したという。「本来は後半

都大路の奮闘に期待

勝負型だったが、緊張もあり、ペース配分がうまくいかなかった。16分0秒前後で走り切った。沿道の風景は一生忘れられない。「最初から最後まで人がびつりて予選では味わえない経験。お祭りの中を駆け抜けている感じがした」と感慨深い。卒業後は東洋大に進み4年続けて箱根駅伝のランナーを任され、3、4年時に区間5位と活躍した。金足農は近野さんの卒業後、全国大会から長く遠ざかったが、今年の全県大会では2位に4分以上の差をつけて頂点に都大路へのキップを56年ぶりにつかんだ。

近野さんは現在、男鹿東中陸上部のコーチを務める。きょう3区を走る予定の小川結人選手（3年）を中学時代に指導した。22日はテレビ観戦で声援を送る。「生きていく間にもう一度都大路を走る母校の選手を見ることができれば幸せ。苦戦は強いられるかもしれないが、1区が流れをつかめば、勢いに乗れるだろう。悔いは残さず頑張ってください」と話した。（阿部拓郎）

母校・金足農「力出し切って」

月間陸上競技提供

金足農
56年ぶり 13回目
監督 小野 雄志（56歳・日体大卒）主将 萩原 太陽 1928年創立 創立

県最高記録：2.03.43<2019年全国大会-秋田県>
県最高順位：2位<1回大会-金足農、34回大会-秋田中央>
都大路学校最高記録：2.14.27<1968年> 学校最高順位：2位<1回>

記録				過去10年の成績	
氏名	学年	出身中学	5000m自己ベスト	23年・22年	
萩原 太陽	3	将軍野・秋田	14.58.51(24年)	—	—
佐藤 令空	1	外旭川・秋田	16.28.81(24年)	—	—
小川 結人	3	男鹿東・秋田	15.07.81(24年)	—	—
二田 悠	2	飯島・秋田	16.07.69(24年)	—	—
佐藤 以琉	1	外旭川・秋田	9.42.92(3000m)	—	—
中山 翔太	1	土崎・秋田	16.25.66(24年)	—	—
中山 蓮斗	3	土崎・秋田	16.03.53(24年)	—	—
田口 一秀	2	板・秋田	—	—	—
薄田 瑛羽	1	天王・秋田	—	—	—
高田 恵人	1	秋田北・秋田	—	—	—

全国大会の目標と抱負
「2時間14分59秒」
56年ぶりの出場で、メンバーは初の都大路で緊張していますが、感謝を忘れず、秋田県代表としてチーム一丸となって走り抜きます。

過去10年の成績
65回(14年).....
66回(15年).....
67回(16年).....
68回(17年).....
69回(18年).....
70回(19年).....
71回(20年).....
72回(21年).....
73回(22年).....
74回(23年).....

主な卒業生 梶谷豊(東京・Jリハビリテーション大学代表)、吉田輝星(オリンピックス・スバル・アスリート)

5 秋 田

駅伝競技大会の記録～新聞記事より～

秋田魁新聞提供

記憶に残る、記録

〈令和6年12月22日(日)〉



全国高校駅伝きょう号砲

男
足
農

ベスト記録更新狙う

女
秋
田
北
鷹

速い展開食らい付く

男子第75回・女子第36回全国高校駅伝競走大会がきょう22日、京都市のたけびしスタジアム京都発着コースで行われる。男女とも都道府県代表47校と地区代表11校を加えた58校で争う。県勢は男子(7区間42・195キ)の金足農は56年ぶり、女子(5区間21・0975キ)の秋田北鷹が4年ぶ

りに出場する。■高校駅伝関連記事24面
金足農は第19回大会でマークしたベスト記録(2時間14分27秒)の更新を狙う。各校のエース格がそろった1区は萩原太陽主将(3年)が務める。1・3区は3年生で固め、5区に県予選ではオーダー外だった薄田瑠璃(1年)を起用。混戦が

(1年)が走る。4区は状態を上げてきた佐藤由奈(同)が走る。全国レベルの速いレース展開に付いていき、タイムを少しでも縮めたい。3区は男子が午後0時半のスタート。中村咲愛主将(3年)は「今できることを発揮して楽しみたい。支えてくれた人への感謝を走り表現したい」と話した。女子が午前10時20分、男子が午後0時半のスタート。(羽生田一海)

【男子・金足農】

(7区間42.195キ)

1区 (10キ)	萩原 太陽③
2区 (3キ)	中山 遥斗③
3区 (8.1075キ)	小川 結人③
4区 (8.0875キ)	二田 悠②
5区 (3キ)	薄田 瑠璃①
6区 (5キ)	佐藤 令空①
7区 (5キ)	中山 翔太①

【女子・秋田北鷹】

(5区間21.0975キ)

1区 (6キ)	吉田 瑠衣①
2区 (4.0975キ)	長田 楓菜②
3区 (3キ)	中村 咲愛③
4区 (3キ)	佐藤 由奈①
5区 (5キ)	秋本 亜湖③

繫ぐ櫓、夢は続く高みを目指して

〈令和6年12月23日月〉

佐久長聖(長野)連覇

男子

最期の1区で八千代松崎の鈴木が飛び出し、2位大牟田を振り回した。3区で佐々長賢が首位に上り、4区で佐々長賢、大牟田との競り合いに、2秒遅れの2位で走り出した佐々長賢のアンカーに、3・5秒過ぎで大牟田石川が切った。大牟田は4人を振り切った。大牟田は4区3位の3人が区間賞を獲得。中盤で盛り返した佐々長賢が3位、八千代松崎が4位に入った。

【男子】ラストスパートをかける金足農の7区中山翔二、なげびしスタジアム京都

苦しいレース再起の糧に

7人中6人が区間最下位差の最下位。憧れの舞台に沈み、57位と5分28秒残念な結果で幕を閉じた。

[illegible]

〇一區(10才)で、八千代松屋(千葉)の鈴木が、歴代日本人最高記録となる8分43秒で区間賞を獲得した。想定以上の向かい風を受けた状況ながら、「完璧に準備してきた自負があった」と中盤から集団を飛び出して快走。高校の先輩である佐藤一世が2019年大会で記録したタイムを5秒縮めた。

全国高校駅伝

全国高校駅伝は2月、京都市のたけひスタジアムで実施される。第5回の男子（7区間、42・1・99・55）は佐久長島、第6回は2年連続4度目、第36回の女子（5区間、21・09・7・5）は長野東が1時間7分27秒で2年ぶり2度目の優勝を果たした。男子の佐久長島は大牟田（福岡）と終盤まで競り合い、最終7

区抽選のつち。24年京の電報を讀んだ女子の新聞では、位、仙居育英會が3位だった。女子の幹部もこの位で最上がトップに立ち、そのまゝ進んでつちた。仙居育英が18校まで3年連続である位、大阪東洋学院が3位に上つた。北勢は男の金足農が2時間4分18秒で58位、女子の秋田北勢が1時間14分27秒48位だった。今回から都道府県代表各校に地区代表校が加わつた。男女とも58人づゝを争われた。(羽田一海)

■高校駅伝関連記事20品

敗。「君の走りが良い流れを持ってきたから、これを支えてくれた人へ恩返しですす悔い」と涙を流した。

この中山選手（同）は「大舞台を駆け上った」といふ、自己ベスト（五分四秒）より約四分遅れた。序盤からペースを上げて走りながら、終盤は体力が持たなかつた。

萩原は大学で競技を続けながら体育教師の免許を取り、母校に指導者として赴任するのが、「理想根拠」など大きな大会で良い走りをもるのが目標。後輩は経験を糧にして高みを目指してほしい」と語った。

「一區の秋田大権主将（3年）は目標の30分台より3分上回った。降段は後方により、終盤の上りで前を追いつく作戦だった。追い追いつく地点で脇腹が痛むスピードに失

アンの土持太（1971年）が築居地となびしスタジアム京都へ戻ると、会場から拍手と声援が送られた。孤独を走りだしたか、大舞台で先輩がつかないでくれたすきまを走るのうしろさ。一瞬しかいなかった。練習場をさらに高め、この舞台へ帰ってきた。

つた。3区の小川結人(こがむす)は、駆け引きでベースをつかむスタイルだが、単独走行で崩れてしまい、3区地点の上りでスタミナを失った。

1000

駅伝競技大会の記録～スナップ写真～

出 発



開会式



大会当日_会場



大会当日校長激励



金農応援

1区スタート前



スタート



スタジアム



ポイント練習



中継所



男子	順位	タイム
51	長野日大	182:01:00
52	西条東	182:01:00
53	高岡学院	2:12:10
54	つるぎ	2:12:33
55	小豆島中央	2:12:38
56	北野山	2:12:52
57	中京大	2:12:55
58	金足農	2:14:50
59	金足農	2:20:18

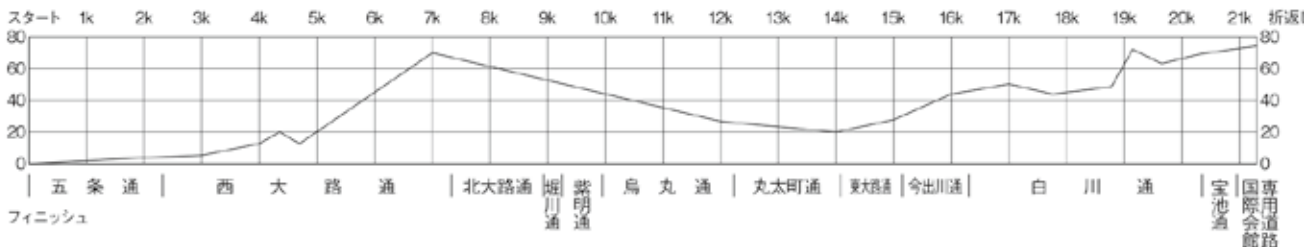


フィニッシュ



男子全国高校駅伝競走大会コース

国際会館





専用道路
国際会館

宝池通

白川通

今出川通

東大路通

丸太町通

烏丸通



金足農業高等学校 校是

感謝 勤勉 自主

校歌

作詞 近藤 忠義
作曲 岡野 貞一

可^{うま}美^{さと}しき郷 我^こが金足

霜^{こお}しろく 土こそ凍れ

見よ草の芽に 日のめぐみ

農はこれ たぐひなき愛

日輪^{にちりん}の たぐひなき愛

おおげにや この愛

いざやいざ 共に承^うけて

やがて来む 文化^{あさけ}の黎明

この道に われら拓^{ひら}かむ

われら われら われら拓かむ

皆様の多大なるご芳志とご支援ご声援
ありがとうございました。

男子駅伝チーム

第75回全国高等学校駅伝競走大会出場支援協議会

一同